

湊

「海の道」は、渥美半島の道の歴史

をたどる上で、特に重要です。陸上交通が発達する以前は、この海の道を通じて、さまざまな人や物が行き交いました。中世では、渥美の焼きものが中山湊(中山町)などから全国各地へ流通しました。また、伊勢神宮領だった神戸町には、青津湊(現在は内陸)が存在しました。近世に入ると、田原街道沿いの船倉湊や畠湊が発達し、伊勢だけでなく、豊橋や蒲郡、知多、名古屋などとの交流も盛んになりました。



◆船倉湊の「いま」「むかし」

船倉橋は新しく付け替えられ、現在は船の姿は見えません。



◆福江(畠)湊の「いま」「むかし」

護岸が造成され、現在は主に漁港として活用されています。

人や物が集まってきた船倉橋周辺

柴田 登さん (田原中部校区)



自動車のない昔は、船が流通の主役でした。汐川の船倉橋下流に醤油工場やセメント工場があって、しょっちゅう船が横着けされていました。トロコなんかも見られましたよ。

わが家も砂利船を3隻持っていたので、二十歳のころは船で砂利を運んでいました。船倉周辺の人は、みんな船を持っていた。川で働く仕事主流でしたね。人がたくさん集まって、いつも活気がありました。



●景気を支えたセメント工場(明治40年)



●たくさんの芸妓で華やかだった田原市街地(年代不詳)

福江港から出航していた『お糸船』

川崎政夫さん (福江校区)

福江港は、昭和30年代まで、豊橋や蒲郡、名古屋、知多、伊勢などを結ぶ重要な港でした。古来の儀式に由来し、明治34年から伊勢神宮に絹糸を献上する行事『お糸船』は、かつて福江港から出航していました。福江の町は、昭和初期には年間約5万人の乗降船人員があり、にぎわっていました。宿や花町、映画館も2つありました。娯楽に飢えていた時代かもしれませんが、楽しかったですね。



●今はなき映画館「福江劇場」(写真は廃館後のもの・年代不詳)



●絹糸が『お糸船』に積み込まれる様子(昭和初期)